

徳島大学消化器移植外科 胃外科 診療のご案内

◇はじめに

当科では胃癌（食道胃接合部がんを含む）・胃粘膜下腫瘍（GISTなど）の治療を、消化管内科・放射線診断科などの他科医師や看護師・栄養士・薬剤師・理学療法士などの多職種のスタッフと密に連携をとって行い、患者さんに最適な診療を提供できるよう心がけています。当科では**6人の内視鏡外科技術認定医（胃3名、大腸3名）が所属し、診療を行っています。**

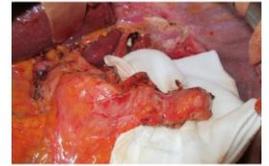
◇当科の特徴

1. 低侵襲手術・機能温存手術：当科では患者さんに負担の少ない手術を提供することを目指して、**腹腔鏡手術ロボット支援手術に積極的に取り組んできました。**また術後の胃の機能を温存することを目指した、機能温存手術にも積極的に取り組んでいます。腹腔鏡手術だけでなく、開腹手術も同等のクオリティで行っており、それぞれのアプローチ法のメリット・デメリットをお話し、患者さんの希望に沿って手術アプローチを決定しています。**2018年に当科で手術を行った80%の患者さんが腹腔鏡下もしくはロボット手術を受けられました。**

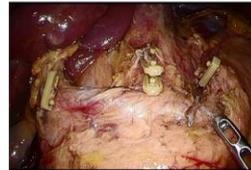
2. 集学的治療・コンバート手術：当科では大学病院の強みを生かし、消化器内科との連携を密接に行い術前・術後化学療法を併用した治療を行っています。また、従来の治療では治療困難（手術の適応とならない）とされていた患者さんに対して、新規に開発された抗がん剤分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤と外科手術をうまく組み合わせることで、治療成績の向上を目指しています。発見時に根治切除不能と診断されても、**積極的な化学療法により根治手術（コンバート手術）が可能となる患者さんも散見されています。**

3. 胃GISTに対する治療：胃GISTは希少な腫瘍ですが、当院では豊富な治療経験を有しています。治療の基本となる外科切除では、腫瘍の被膜を傷つけないきれいに切除するという原則を守りながらも、できるだけ低侵襲かつ機能温存を目指した手術を行っています。噴門や幽門などの重要な機能を温存するために経口内視鏡と腹腔鏡で協力しながらおこなう手術（LECS）も行っていきます。また**単孔式手術**も実施しています。

開腹胃全摘 脾摘 (D2)



腹腔鏡下胃全摘



観音開き再建



術前3D Simulation



単孔式腹腔鏡下胃部分切除



ロボット支援手術



◇ロボット支援手術について

本年度より手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いたロボット支援下内視鏡手術について胃癌・直腸癌などの術式が保険適用となりました。当院でも、2018年4月から胃癌、直腸癌のロボット支援手術を実施しております。ロボット手術のトレーニングを受けた内視鏡外科技術認定医が担当させていただきます。2018年4月以降、胃癌については2019年3月末までに約35例実施しています。

適応症：胃癌：幽門側胃切除、胃全摘、噴門側胃切除
直腸癌：直腸癌手術

(文責：西 正暁)